



第8回

# 500E俱楽部

## 熱血的 W124 愛好家の広場

今月のメニュー

- 夏対策メンテナンス
- JOY 耐レポート

クルマにとって夏は最も過酷な時期。特に500Eの水温対策について悩んでいるユーザーも多いはず。そこで今回は効果的な夏対策メンテナンスを紹介しよう。また6月17、18日にツインリンクもてぎで行なわれた、JOY耐久とEnjoy耐久レースの模様もレポートしたい。

文=ニイベサトシ 撮影=アオキスタジオ/ニイベサトシ  
協力=アンフィニ/Sファクトリー/えちごや/サバイブ/J-Auto/スピードジャパン/500Ecstasy's

### 対策品の流用で 水温を下げる夏を乗り切る



雲海に浮かぶ赤城山を背にしたヘアライン号。



E55ファン+W210用ウォーターポンプ流用でオーバーヒート知らずのえちごや6リッター号。



E55用9枚羽根ファン。ファン形状の改良によりW124/500E用のものより軽量&amp;高効率だ。



M120V12用11枚羽根ファン。冷却効果は高いがマグネシウム製で重いと高価なのが難点。

#### 水温対策の重要なポイントと トータルバランスとは?

500Eは夏が苦手。

これは暑い夏を経験したオーナーなら皆が知っていること。水温計も100°C超が常である。

主治医のラジエーターの藤根さんは夏対策を伺うと「何もないよ。普段からきちんと整備をしてればそれでOK」とそつけない。

メーカーの想定範囲とは言え、水温12°C上昇で点火時期を5度遅角するECUプログラムでは、水温

80°Cの時より、104°Cでは10度遅角していることになる。どうりで夏はパワーダウンするわけだ。

さらに食い下がって情報を収集すると「メーカーは107°Cで高速ファンが回るようになつて122°Cでエアコンカットとしている。M119も熱対策には苦労していくW210では対策品を出している」との有用な情報入手することができた。これらを基に、500Eオーナーのために水温対策の6つの重要なポイントを開こう。

まずは、しっかりと冷却水を循環させるW210用の対策品のウォーターポンプに交換。

次にエアコン。これはAC/ON時に圧力スイッチによって低速側のファンを作動させており、ガソリンエンジンによって燃料の冷却を行なつているから疎かにできない。

そして3番目は、電動ファンのレジスターとファンリレー。「これが熱劣化したり、リレー不良でファンが回らないとダメ。

4番目はラジエター。こちらは純アルミ層とアフターマーケット製の真鍮3層の選択肢がある。純正はアンフィニの森岡氏で「ラジエターは消耗品だけど、新品を使つていれば耐久レース車両でも3層は不要」と言い切る。Sファクトリーの藤根氏も、ほかの部分がきちんととしているなら特に不要と言う。対してJオートの松本氏は「外気温40°Cの都内の激暑では自ら放熱性能の高い3層は不可欠」と言つし、サバイブの遠藤氏も「昔のベンツはコストをかけた3層の真鍮。水温低下によるプラスチック部品の劣化を予防する効果もある」と、意見がそれぞれ分かれれる。要は

E55用9枚羽根ファン。ファン形状の改良によりW124/500E用のものより軽量&高効率だ。

アルミ層とアフターマーケット製の真鍮3層の選択肢がある。純正はアンフィニの森岡氏で「ラジエターは消耗品だけど、新品を使つていれば耐久レース車両でも3層は不要」と言い切る。Sファクトリーの藤根氏も、ほかの部分がきちんととしているなら特に不要と言つ。対してJオートの松本氏は「外気温40°Cの都内の激暑では自ら放熱性能の高い3層は不可欠」と言つし、サバイブの遠藤氏も「昔のベンツはコストをかけた3層の真鍮。水温低下によるプラスチック部品の劣化を予防する効果もある」と、意見がそれぞれ分かれれる。要は

